

えりも地域ゼニガタアザラシのモニタリングに係る

令和4年度用語集

上陸個体数割合**【定義】**

- ・生息個体群全体のうち上陸している個体の割合

【算出方法】

- ・生息個体数全体のうちの上陸個体割合を直接的に算出することは不可能であるため、「調査期間中における特定個体の上陸日数割合」をもって上陸個体数割合と仮定する。

$$\sum_{i=1}^n (i \text{の延べ上陸日数} \div i \text{の調査日数}) \div n \times 100$$

繁殖期： i は厚岸町大黒島において写真撮影により識別した特定個体換毛期： i は電波発信機を装着した標識個体

なお、各個体の調査日数がほぼ同じ値であり算出値には大きな影響はないと想定されるが、今後は既往観察結果を含めて次の式で算出することを検討する。

$$\left(\sum_{i=1}^n i \text{の延べ上陸回数} \div \sum_{i=1}^n i \text{の調査回数} \right) \times 100$$

【算出結果】**■繁殖期**

- ・2007年及び2008年の4～6月（17日間～31日間）、写真識別した成獣メス4個体の調査日数に対する上陸日数割合の平均は53%となった。
- ・2007年及び2009年の4～6月（40日間～57日間）、写真識別した成獣オス3個体の調査日数に対する上陸日数割合の平均は44%となった。
- ・成長ステージの違いや大黒島とえりも地域の個体群では結果は異なると考えられるが、これらを等しいと仮定して推定結果を上陸個体数割合に用いている。

■換毛期

- ・2011年6月19日～9月2日の期間中に電波発信機を装着した20個体（当歳14頭、1歳以上6頭）を放獣した。襟裳岬岩礁への上陸個体数が合計300個体以上の日において追跡個体の上陸日数割合は71%となった。成長ステージや雌雄の違いによって結果は異なると考えられるが、これらを等しいと仮定して推定結果を上陸個体数割合に用いている。

発見率

【定義】

- ・ 上陸個体全数のうち陸上からの目視調査でカウントした割合

※見落とし率 = 100 - 発見率

【算出方法】

- ・ (陸上からの目視調査による上陸個体数) ÷ (ドローン調査による上陸個体数) × 100

【算出結果】

- ・ 2018年及び2019年に環境省及び東京農業大学によって実施された調査記録を推定した結果、霧が出ておらず、ディスターブがなかった良好な観察条件における発見率は78.7%となった。ただし、本来は岩礁間で発見率が異なるが、推定結果は発見率が等しいと仮定している。

当歳

【定義】

- ・ 0歳の個体

※生まれてから離乳までの期間を pup とする。

【判断基準】

- ・ 解剖により確認。解剖の対象としない場合は体長・体重・外部形態等から総合的に判断する。

1歳以上の未成獣

【定義】

- ・ 当歳を除く未成熟個体

【判断基準】

- ・ 解剖により性成熟に達していないことを確認。解剖の対象としない場合は体重 80kg 未満。

成獣

【定義】

- ・ 性成熟個体

【判断基準】

- ・ 解剖により性成熟を確認。解剖の対象としない場合は体重 80kg 以上。

※令和3年度までの資料では、成長ステージを幼獣（当歳～1歳）、亜成獣（2～4歳）、成獣（5歳以上）として区分している。

被害尾数割合

【定義】

- ・ 漁獲尾数のうち被害尾数が占める割合

【算出方法】

- ・ $(\text{被害尾数}) \div (\text{被害を含む全漁獲尾数}) \times 100$

被害重量割合

【定義】

- ・ 漁獲量のうち被害量が占める割合

【算出方法】

- ・ $(\text{被害量}) \div (\text{被害を含む全漁獲量}) \times 100$
- ・ サケ・マス類について、春定置では「漁獲尾数を全数カウントできた揚網の漁獲量／漁獲尾数」を平均重量として被害量を算出している。秋定置では、えりも漁協から提供された平均重量 3.3kg/尾から被害量を算出している。